

キラリ看護部



Vol.7

母性看護実習について



主任助産師
間 奈々美

こんにちは。助産師の間（はざま）です。今回は、当院での母性看護実習の様子をお伝えします。

当院では、県内だけでなく広島県からも看護学生の母性看護実習を受け入れており、私が臨地実習指導者として平成27年から関わっています。これまでに延べ150名の学生の支援をしてきました。

実習では、妊婦健診や分娩の見学、褥婦さんや新生児の看護ケアを中心に指導をしています。また、地域実習の一環として、消防署や役場の見学も取り入れ、地域と病院の連携についても学習してもらっています。学生さんから、この体験は、他の施設の実習では経験することがなく、「子育て支援が素晴らしいです。」「救

急車の中での分娩訓練がみれて良かったです。」などの意見があり、よい評価をもらっています。



学生さんたちの母性看護学へのイメージは、学習が難しく苦手意識が強いようです。普段、新生児に触れる機会がないため、実習に対する不安が大きい学生も少なくありません。できるだけ、不安がないように実習の方法を工夫しています。

例えば、新生児の沐浴の場面では、赤ちゃんにできるだけ触れてもらってその愛しさを感じてもらうことから始めます。赤ちゃんを抱っこすると、どの学生も緊張した表情がほぐれ、口をそろえて「かわいい」と笑顔になります。赤ちゃんに興味を示し、意欲を持って実習に臨むようになります。

実習では、指導をされていて嬉しいこともあります。学生さんからたくさん学びを得ることです。実習が終わるときに、学生さんとカンファレンスをしています。次のような感想を聞かせてくれます。「お母さんはあんなに頑張って自分を産んでくれたのだと思うと、とてもありがたく思いました。」「生まれた瞬間、自分も感動して涙が出ました。出産にはたくさんの方が関わっていて、自分もそのお手伝いができて良かったです。」などです。私は、助産師としてこのような貴重な体験をさせてもらっていたんだと気づかされる瞬間です。

これからも、邑智病院では母性看護実習を受け入れていきます。皆さんも、病院にいらっしゃったときに学生さんを見かけましたら、「実

習に来ているんだな。」と、温かい心で見守っていただけたらと思います。将来、看護師を目指して頑張っている学生さんたちをいっしょに応援してください！

